

Participating in ASEP 2019

Hyogo Prefectural Kawanishi Midoridai SHS
English teacher Atsuko Tsuda

May I Please Express My Appreciation

I am truly thankful to everyone who was in charge of this program. Not only the students but also I myself learned a lot and had a great time. I hope this program will continue for a long time, and that more and more students will have a great experience through this program.



How Effective ICT Was for Our Communication

This time we could have several TV conferences before we met in Taiwan. Of course the students couldn't have their discussion more effectively than when they had a face-to-face discussion, but they could exchange their ideas and deepen their thoughts. They enjoyed having discussion in a TV conference, and when I saw them communicating cheerfully, I thought this program was already successful enough. When they met in Taiwan, they had already known each other well, so they could start staying with Taiwanese students smoothly and have a closer relationship. I believe they will keep the relationship alive in the future by using ICT.



How Good the Theme SDGs Was for Our Students

In our club we have been studying SDGs this year, visiting JICA and made a poster presentation in the cultural festival. SDGs is exactly what high school students have to think deeply about now. ASEP was a good chance to exchange what they had learned with Taiwanese students in English, and deepen their thoughts. Through ASEP program, they could expand their vision for SDGs.



What My Students Experienced

My students had precious experiences in this program. First they received a sense of achievement by making a presentation together with Taiwanese students in English. This successful experience will give them a lot of confidence and motivation to take on other challenges. Second they watched wonderful presentations made by other teams. Their confident manners, logic and fluency of English must have inspired them. Third they deepened a friendship with Taiwanese students by working together towards the same goal. Those friendships will last long into the future. Fourthly they experienced the kindness of Taiwanese people with their host family, at school and everywhere else. They will never forget the kindness of Taiwanese people and their good memories in Taiwan. I hope they will make use of those experiences and contribute to society in the future.



ASEP 2019 に参加して

兵庫県立川西緑台高等学校 2年 平井 智也

今回が自分にとって初めての ASEP を通して、普段では味わうことのできない多くの経験をする事ができました。もちろん台湾の文化や環境など、いろいろなことを感じる事ができましたが、それよりも世界中の学生の、世界での問題の改善に対して全力で取り組もうという強い情熱を一番に感じました。

私たちのテーマは、「男女平等」で、「男性が優位な社会を廃止し、男性と女性が平等な社会を作る」という目標を掲げてこの問題に取り組みました。

今回は台湾の学校とのチームでしたので、日本と台湾での問題をそれぞれで調べ、その中での特徴や違いなどに着目してプレゼンテーションを作りました。なかでも特に驚いたのが、日本で育児休暇を取る男性は、全体の 5% ほどしかおらず、さらに育児休暇を取る男性のうちの 50% 以上が、5 日程度しか育児休暇を取得しないということです。

日本の男性は基本的に、30 週以上育児休暇を取ることができるとされています。それにもかかわらず短期間しか取得をしないというのは、とても異常であると思いました。これは、男性は仕事を、女性は家事や育児といった、日本で根強く残る「性別役割分業」という考えが原因だと考えました。

これは私たちのプレゼンの内容の一部ですが、その他の問題も取り上げて製作しました。

普段海外の人と意見を交換して議論する機会はないので、とても貴重な経験になりました。

今回ホームステイをするのは人生で二回目で、特に大きな不安はありませんでした。ただ、台湾は母国語が英語ではないということもあり、お互いに意思疎通ができるか心配でした。しかし、そのような心配は必要なく、英語が苦手な相手でも簡単な英語を使うなどして、いろいろな人とコミュニケーションをとることができました。この経験をただ楽しいで終わらせるのではなく、自分の将来に生かせるようにしたいと思います。



ASEP 2019 に参加して

兵庫県立川西緑台高等学校 1年 山本 未羽

①自分の研究成果と課題

今回、ジェンダー問題を取り扱い研究して、ジェンダーについて様々な場面で考えなければならない時代であることを痛感した。私個人としては、男女の職業の相違について調べた。調べて行くにつれて、その違いが歴然としておりその差を少しずつ埋めていかなければならないと思った。身近な問題としてはなりたい職業などだ。医者やエンジニアなどは男子、ケーキ屋や看護師、保育士などは女子が希望する傾向が強いというデータであった。やはり私たちは生まれてきたときから、技術仕事は男、家事仕事は女という、偏見を持っているのではないかと思い、私たちがそれを覆していく世代だと思った。また、非正規雇用、正規雇用としての男女の取り扱いで、そこでも性的役割分業の影響がわかるデータが見られた。また、これらは台湾でも大きく変わることはなく、やはり男は理系、女は文系で、職業もそれに沿ったように進んでしまう、と言う意見であった。また、同じように職業での偏見を持つてしまうということであった。この意見を受けて、解決策としては世界的にやるべきことは一緒なのではないかと思った。また、これらに関しては私たちにとって身近な問題であり、この現状を学生たちも知る必要があるのではないかと思った。

課題としては、調べたデータに対しての具体的な解決策を考えることが出来なかったことだ。データを調べるだけで、自分の意見を具体的に展開できなかった。また、法律を変えることなどにしか目が行かず、私たちはこの問題に対して、どうすべきなのか、私たちが簡単に出来ることを具体化することが出来なかった。他のチームは、私たちが出来るようなノープラスチックデイをつくるなどの私たちがその問題について知ることができ、またその問題の解決に貢献できるような具体例を出していて、私もそのような私たちの世代に還元できるようなプレゼンテーションが必要だと思った。



②今回の研修を振り返って

今回の研修で、台湾のたくさんの文化、人、食べ物など、台湾の生活を身近に体験できた研修だった。特に、私が心に残ったのは、台湾の人の優しさだ。道を歩くとき、”Go inside”と言って、いつも外を歩いてくれたり、たくさんのクリスマスプレゼントを初めて会った人でもくれたり、積極的に話しかけてくれたり、日本語をしゃべってくれたり、事例を挙げるできないほど、私が台湾に来たことを本当に歓迎してくれた。本当にたくさんの幸せを台湾でもらった。また、驚いたこととしては学校だ。私は保健体育の授業体験を受けた。そこでは授業中に生徒がパワーポイントをつくり、操作して授業を進める姿を見た。これは日本ではないことであったので驚いた。また、板書がなく先生がたくさんのジェスチャー、表情など、視覚的に訴える表現をたくさん使って、とてもわかりやすい授業だった。台湾の授業は生徒に積極的に意見を求め自分で考えることが多い授業であった。授業に関係がある、女優さんや、ユーチューブを必要に応じて出したりして、私たちがそのことについて考えることができる環境があった。



この研修でたくさんの人とふれあい、たくさんの会話をし、相手のことを知ることができた。また、英語スキルをあげるきっかけとなった。この5日間はとても内容が濃く、たくさんのことを深く考えるきっかけとなった。ここで得た友人や、文化などたくさんのことをこれからの人生に生かしていきたい。

ASEP 2019 に参加して

兵庫県立川西緑台高等学校 2年 佐藤 夏美

今回私はこのプログラムに参加するにあたって、一つの目標を持って参加しました。それは、極力電子辞書を使わないようにする!!という目標です。なぜなら、前回ホームステイを経験したときに、すぐに電子辞書を使ってしまい、電子辞書がずっと手放せない状態になってしまったからです。自分自身の今の力を知ることが出来るいい機会なので、この目標を持って頑張っていくことを決めました。しかし当初は、自分自身の力だけで、言いたいことを全て伝えることが出来る自信が無かったので、英語ができる友達に相談して、まずは単語力を付けることから始めました。このプログラムの最初に台湾生徒とテレビ会議が3日に1回くらい行われました。そこで、話すこと以上に実は聞く力、理解する力が大切であることを感じました。

また、私たちは2019年夏のWYMの時に一番良い賞はとれなかったのですが、その時よりも、自分たちが考えていることを伝え、さらに聞いている人が分かりやすい内容になっているかを考えながらプレゼンテーション作りに取り組みました。台湾生徒とのテレビ会議での意見交流では、自分の言葉で思うように伝えることが出来なかったのが、すごく不安になりました。しかし台湾に着いて、現地の生徒と話してみると英語で言いたいことが伝わり、また相手が何を訴えかけているのかも理解することができたので、英語でもっとたくさん話したいと思いました。それでバスで移動する時や出掛ける時は現地の生徒と行動し、たくさん話をしました。その中で、好きなことやかわいいと思うものなど、共感できることが多くあり、さらに日本のこともよく知ってくれていたのが、すごくうれしい気持ちになりました。そこで、台湾に限らず、その国のことをきちんと知ったうえで訪れるべきだと実感しました。

次に、この国際交流で私の一番の目的であったホームステイでは、私は初め、一人の同じ年の子と一緒に五日間過ごすと思っていたのにホームステイ先の子の友達も一緒に、つまり私を含め三人で過ごすという事を知って、これからしっかりと会話して過ごしていけるのか不安になりました。しかし、彼女たちと会って、次の日には色々なことを話せる友達になりました。彼女たちはどんなときでも私を気遣ってくれて、とにかくテンションが高く、場を盛り上げてくれて、彼女たちの隣で過ごせた日々は本当に楽しい毎日でした。彼女たちとは日本に帰ってからもずっと連絡を取り合っています。また色々な相談もできる頼りになる存在なので、彼女たちとのつながりはなくならないようにしたいです。そのような存在の友達が出来たという今回の経験は、私にとってこれから先どんな場所に行っても大丈夫だという自信にもつながったと思います。これからはこの経験を時々思い出して将来に向けて頑張っていこうと思います。

最後に今回の目標であった、電子辞書を使わないようにすることは、必要な時はしっかり調べ、自分の身につける事が大事だと実感しました。今回、目標というものを心にとめて過ごすいい機会になったので、このような経験が出来たことはこの先大切にしていきたいです。



ASEP 2019 に参加して

兵庫県立川西緑台高等学校 2年 梶原 彩愛

まず ASEP2019 を通じて学んだことについてです。今回私たちが参加した ASEP におけるプレゼンテーションのテーマは「SDGs」でした。大会に参加しなければ触れる機会がなかったかもしれない単語です。初めは難しそうなテーマだと感じていましたが、調べていくと私たちの生活と深く関わっていることが理解できました。

全 17 項目の中から私たちが選んだのは、5 番の「ジェンダー平等を実現しよう」です。ジェンダー問題に関しては何となく意識はしているものの、危機感を抱くほど深く関わったこともないというのが私の現状でした。ところが、台湾という少し離れた文化と意見交換をしてみると、意外と身近にジェンダー問題はあることに気付かされました。家父長制社会が深く根付いていること等両国に共通していることも多く、日本国内のみで勉強するのはまた違った視点で学ぶことが出来たと思います。

国際交流、文化交流としての台湾での体験はどれも新鮮で刺激的でした。まず常識が根本から違います。例えば、車やバイクがたくさん通っている道路でも歩道もないのに躊躇なく歩いて行きます。正直、かなり危ないと思いました。それから道の両側には、肉や魚介類、軽食や飲み物などの様々なお店が並んでいました。驚いたのは、魚介を売っているお店で客が購入するエビを手づかみでビニール袋に詰めていたことです。日本だと衛生面でまず問題になると思います。他にも、野菜や果物が道路脇のビニールシートの上で売られていたり、市場のお惣菜の量り売りでは種類関係なく好きなものをビニール袋に詰めるシステムだったり、日本がいかに清潔さに気を配っているかが分かりました。私は違う国に来たんだと感じられて面白かったですが、環境を辛いと感じる人も多いだろうと思いました。

今回のプログラムで何よりも嬉しかったのは、台湾人の友達が沢山できたことです。ホストファミリーの 2 人はもちろん、プレゼンテーションに参加していない生徒でもフレンドリーに接してくれ、連絡を取り合うような仲の人が何人もできました。お互いたどたどしい英語ながらコミュニケーションを取り、時間を共有できるのはとても幸せです。たったの 4 日間ほどでしたが、常に笑って過ごすことが出来ました。今回の縁をこれからも大切にして、必ずまた皆で会いたいと思います。



ASEP 2019 に参加して

兵庫県立川西緑台高等学校 2年 本郷 美琴

① 自分の研究成果と課題

1. ホームステイでは、台湾の人々の文化と生活を知ることができた。

→同じアジア圏でも、日本とは違うところが多い！！

- ・食事は外で済ませる。(市内には、屋台がたくさんある)
- ・湯船がない。
- ・三階建てで、縦に長い家が多い。
- ・挨拶をあまりしない？(先生など)
- ・お祈りの仕方が違う。

2. 日本と台湾の生徒の比較

→台湾の生徒の方が主体的に行動する。自律が出来る。

- ・授業中にスマホをさわったり、ご飯を食べたりして良いが、きちんと授業をうけていた。
- ・店の人や、町の人とはきはきと話していた。
- ・積極的に話しかけてくれた。英語の発音がよく、使うことに慣れている様子。
- ・交通量が多い通りでは、注意深く周りを見ていた。

3. ASEP

- ・観客の興味を引くために、様々な工夫がされていた。
- ・プレゼンの内容も大切だが、そのあとの質疑応答で責任をもって答えられる事も重要。
- ・環境、ジェンダー、食品など、身近にあるのに普段は注意が向かないものをテーマにしているところが多かった。



自分の課題

→主体的に行動する事

台湾の学生と交流して、普段、自分は受動的に行動することで多くのチャンスを失っていたことに気が付いた。台湾に滞在中は自分の英語が通じている、と喜んでいましたが、それは台湾の学生が私たちが話しやすいようにたくさん質問をしてくれたり、話そうという気持ちをアピールしてくれたからだ、と、振り返ってみてわかった。主体的に動くことは、自分がより多くの利益を得られるだけでなく、他の人にとってもいいことだと知ったので、これから心掛けて何事にも挑戦したいと思う。

② 今回の研修を振り返って

英語が第二言語の学生同士で交流する、ということは私にとってとても良い刺激になったと思う。自分と同じ地点からスタートしているはずなのに、格段に英語が上手な台湾の学生たちに追いつけるよう、もっと英語を勉強しようと思った。また、ホームステイ先の子は日本語が上手で、同世代の子でも、すでに自分の夢に向かって一生懸命努力していると知り、自分も何かするべきなのだろうと思い、焦っている。

ASEPは、日本の時と同様にレベルの高いプレゼン大会だったと思う。特に、テーマがSDGsというこれから私たちが真剣に取り組まなければならないものだったので、どのプレゼンも問題と真剣に向き合っているものだった。私は夏の大会でも自分の力不足を感じていたのに、今回も失敗をしてしまい、質問に答える事が出来なかったことを悔やんでいる。今度こそは、これがただの後悔にならないよう努力しなければならない。

ホームステイでは、観光客としてホテルに泊まる事では知ることができないことを、経験できたと思う。お互いに言葉が通じなかったが、ご家族との交流は良い経験になった。とても親切にしてくださいだったので、もし機会があればお返しをしたいと思うし、また、私も海外の方に親切にしたい。

ASEPのプログラムをとおして、広い世界を見る事が出来た。この貴重な体験を、これからの生活で周囲の人の役に立てるような形で活かしたいと思う。

ASEP 2019 に参加して

兵庫県立川西緑台高等学校 2年 古田 崇真

①自分の研究成果と課題

今回の自分の研究成果は日本と台湾とのジェンダーに対する認識の差、というものを一番大きく知れたと思います。今回自分は日本女性の就職割合について発表をしました。そして発表内容を台湾のチームと考え、意見交換していく中で女性の就職割合については台湾と日本は似たような法を制定しているのにもかかわらず、まだ形だけであるというところがあるという共通な部分を持っていてそれに対する解決策にもそれぞれの国らしさが出ていて、普段日本人となら思いつかない発想を知れてとても面白かったです。

今回の自分の課題は台湾チームとインターネット上で会議する際、自分が加わる時間が他の日本人メンバーより少なく、自分は多くのことを現地に着いてからするという、大変非効率的なことになってしまったことです。もし次回大学生にでもなって参加できるようなことがあれば、このような課題をなくすべく毎回参加し、たとえその日の会議に行けないのであれば、自分の意見は出し、その日中に何らかの方法で会議内容を知る。これを行うようにしていこうと思いました。



②今回の研修を振り返って

今回行くことで特に2つの事が自分の中で変わりました。1つ目は自分の中の価値観です。特に政治に対する価値観が大きく変わりました。台湾では自分たちの地域の政治家や、国の政治や歴史をよく知っているのに対して、日本人は政治離れや自分たちの国の歴史についてあまり知っておらず、その分野での会話があまりできず恥かしい思いをしたので、自分の国のことぐらいは海外の人に話せるようにしておこうと思いました。

2つ目は受験勉強に対する意識です。相手校に行った際、勉強に対する熱意がすごく、今の自分の勉強姿勢に対して考え直すとても良い機会となりました。そして何よりもまた必ず台湾に行きこのメンバーに会う、という大きな目標が出来、これが今の受験勉強の大きな原動力となっており、きっとこれは日本には得られない原動力だったと思います。

